

令和5年度 江戸川区立下小岩小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	自ら考える子・自ら学び他者と協力して課題を解決する子 心豊かな子・多様性を認め他者と共に生きる優しさをもつ子 たくましい子・何事にも自ら挑戦しようとする前向きな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	元気に登校、楽しく生活、満足して下校できる 笑顔あふれる学校 みずからチャレンジ 笑顔がややく 下小岩の子 チームとして協働し、互いに切磋琢磨する教職員
前年度までの学校経営上の 成果と課題	<成果> <課題>		

教育委員会 重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた 改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・民間と連携した補習教室の活用 ・教科担任制の導入 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	・週2回授業支援アプリを活用した学習タイム(東京ベシーックドリル補習)の実施 ・学年間教科分担制の実施 ・民間と連携した補習教室の活用 ・学習規律の徹底 ・黒板掲示カードを活用した問題解決的な学習の実施	・実施率100% ・全学年で教科分担制の実施(交換授業) ・ベシーック診断Aと比較しBの定着率10%アップ ・補習活用100% ・児童肯定的評価80% ・実施率100%	A	A	・5年生は4回東京ベシーックドリルを実施し、結果に基づいてカルテを作成した。また、カルテを基に習熟が不十分な問題に取り組む時間確保した。その結果、成果が見られた。 ・他学年においては、3回東京ベシーックドリルに取り組み、5年生同様の取り組みをした。 ・高学年で教科担任制の実施を行った。中学年では道徳の交換授業を実施。担任以外の教員の指導により集中力、意欲の高まりが見られた。	A	・教科担任制は教員の専門性が生かされ、学力向上に効果的だと感じられる。経験的に専門性の高い教員から教わることで児童の関心が大きく高まると考えられる。 ・道徳の交換授業は、多様な教員の授業に触れることが児童の成長に影響を与えると思う。 ・学校応援団がよく活用されている。	・児童がカルテを基に習熟が不十分な問題に取り組む時間を確保することで、一年間を通して児童の学力が向上した。来年度もカルテを基に学習する方を重視し、ICTや紙ベースの学習問題など、ハイブリッドな教育の展開をし、学校としての学力向上を図る。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・「江戸川っ子 読書科コンクール」の全員参加 ・教科指導で学校図書館の積極的活用 ・公共図書館との連携強化	・実施率100% ・学級で週1回以上の活用 ・年間1回以上の図書館と連携した授業支援	B	B	・「区 読書科コンクール」に全員が参加した。本を使った探究的な学習の仕方を体験できたと共に、本に触れる機会を増やした。公共図書館の書籍も積極的に活用できた。 ・図書館から読書貸出推進キャンペーンを行った読書に親しみ取組を次年度もさらに増やしていく。	B	・若者の読書が加速しているといわれるなか、読書から学び、読書の楽しさを味わうことができる取り組みをしている。 ・図書ボランティアの読み聞かせや読書タイムの充実により児童が読書に親しむ機会を創出する。	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・全員外遊び(中休みの奨励) ・中休みを活用した運動遊びの取組 ・栄養士による授業を年間1回以上の実施 ・生活リズムワークの実施	・学級の実施率90% ・年間とおして全学年実施 ・実施率100% ・年2回実施	A	A	・毎日、休み時間に、多くの教職員が家庭で児童と共に遊んだ。児童が日常的に運動する習慣が定着した。 ・短縄月間、長縄月間、持久走月間等を実施し、休み時間に積極的に体を動かす取組を行った。 ・タブレットを活用し、児童の生活リズムの実態把握を行った。健康な生活への意識をさらに高めていく。 ・屋上(ボッチャコート)を有効活用することで運動の幅を広げる。	A	・総合での児童の増加と狭小な施設という制約にもかかわらず、児童の運動機会を確保するために工夫して取り組みを進めている。 ・ポッチャは地域の方が参加してもよいかもしれない。	・体育学習発表会では、より活気のあるものにするために2部制で行い、保護者と児童が同時に観戦できるものにする。 ・次年度も全校を挙げてなわ跳びや持久走などに取り組む期間を設定し、運動機会の確保と児童の運動への意欲を高める。 ・生活リズムの実態把握は継続して実施する。
共生社会の実現 に向けた教育の 推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副都府交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育研修会 年3回実施 ・校内委員会 月1回情報共有 ・エンカレッジルームの教職員の協力体制の構築 ・教材教具や掲示物の工夫、視覚的支援	・実施率100% ・実施率100% ・協力体制の作成及び随時対応 ・実施率100% ・教員、児童肯定的評価80%	A	B	・3回の特別支援教育研修会を実施した。 ・教材教具についても、研修会で学び個に応じた指導の充実につなげた。 ・校内委員会ですべてに情報共有することで、児童にとって適切な個別の支援・指導につなげることができた。 ・ユニバーサルデザインの視点での授業改善が課題。	B	・特別支援教育は高い専門性が要求される。研修会を充実させることで教員の特別支援教育に対する素養をさらに向上させてもらいたい。	・エンカレッジルームの環境を整えることで、より質の高い特別支援教育を実現させる。 ・研修会の内容を充実させる。(講師の招へい、巡回指導動画活用など)
	・持続可能な社会の実現に向けて学びのある教育活動の展開	・江戸川区「SDGsビジョン」「共生社会ビジョン」を活用した授業の実施	・実施率100%	B	B	・SDGsの掲示物を作成した。 ・1月 道徳授業地区公開講座において、区の職員を招いて「SDGsビジョン」「共生社会ビジョン」について、6年生、保護者対象に講演会を行い、理解を深めた。	B	・保護者、地域、学校をつなぐ意欲的な取り組みをしている。	・生活科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳の時間などを活用し、持続可能な社会の実現に向けた内容を学習に盛り込む。
子どもたちの健全 育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 ・人権意識向上	・SSWや外部機関と連携を強化し、不登校児童を開発機関と繋ぐ。 ・hyper-QUの分析を実施し、学級経営に生かす。 ・「江戸川区子ども権利条約」について授業を実施する。	・実施率100% ・QU研修の実施 ・実施率100%	A	B	・SSWや外部機関と連携を強化し、不登校児童を開発機関と繋ぎ、家庭が学校以外の支援を受けられる環境を整えた。 ・QUを実施後学年で共有する時間を設定した。学級内で孤立感や不信感をもつ児童の傾向を学年全体で把握し、組織的な指導に役立てることができた。	B	・不登校に対する多角的な対応をしている。 ・個別の事案にあわせて今後も対応の継続を希望する。	・家庭、学校、外部機関の連携をより充実させ、不登校児童と家庭の不安解消と問題解決に一層努力する。 ・全校児童にQU調査を実施していることやそのデータをもとに担当が孤立している児童の発見や学級内の人間関係の把握を多角的に行っていることを発信していく。
	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・生活指導連絡協議会の活用	・学期に1回、生活アンケートいじめ関連の道徳授業の実施。 ・いじめ防止研修会の実施。	・いじめ対応の継続事例0。 ・実施率100%	A	B	・いじめ対応の継続事例0を各学期で達成できた。 ・いじめ防止研修会以外でも職員間で連携して案件にあたるなど、いじめを防止する学校づくりの取り組みができていた。	A	・軽微ないじめにまぎれた重大ないじめを見落とさないようにしてほしい。	・学校いじめ対策基本方針のもと、ふれあい期間におけるいじめ対応の継続事例0を目指し、きめ細やかな対応を継続する。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・PTA活動、地域行事への参加、HP等による情報公開 ・学校日記の更新を年間100回以上	・HP、連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信 ・実施率100%	A	A	・ホームページでの情報発信を充実させた。 ・学校公開、公開行事等、教育活動を公開する取り組みを積極的に実施した。 ・連絡メールを活用した情報発信を実施した。	B	・学校からの情報をさらに多くの人に知らせるために、メールによる学校ホームページの更新のお知らせがあつてよい。	・totoruの有効活用による情報提供のデジタル化を促進する。 ・学校からのお知らせに学校ホームページへのリンクを掲載し、より多くの閲覧を促す。
特色ある教育の 展開	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回 学校評議員会の実施 ・保護者アンケートの実施	・実施率100% ・保護者アンケート肯定的評価80%	B	B	・年間3回の学校評議員会の実施。 ・保護者アンケートでは24質問項目中18項目において肯定的評価が80%超であった。	B	・教職員の努力により、学校の教育活動に対して一定の評価を得ていると感じる。	・取り組みごとに改善点を点検し、教育効果を高めるための振り返りを随時実施する。
	「生活科」総合的な学習の時間における地域の特性を活かした教材の開発	・校内研究で全学年教材の研究、開発	・実施率100%	B	B	・地域を素材とした授業を各学年で実践し、学年の系統性を考慮した教材を開発した。今年度の目標の一つである地域や外部とのつながりを大切にして教材開発を行うことができた。	B	・「生活科」総合的な学習の時間の工夫により、フラーロードをはじめ地域のことを好きになる児童を育ててほしい。	・今年度から新生下小岩小学校として「地域」教材の開発を中心に進めてきた。そのため、総合的な学習の時間の本格的なスタートが例年よりも遅くなる傾向があつた。来年度は、今年度開拓した地域教材や人材を活用して授業を進めていく。
「学校における働き方改革プラン」の取組	・2週間1回の一斉退勤日の設定 ・業務内容の精選	・年間20回実施 ・学校評価を活用した業務内容の精選、改善。	・実施率100%	C	B	・教職員の内部評価による業務内容の精選と改善を図った。 ・一斉退勤日など校務の負担を軽減する具体的な継続的な取り組みが課題となる。	B	・現状のスタッフのマンパワーにより一丸となって教育活動に邁進している。	・授業の内容の充実を伴った時数の見直しによりゆとりを生み出し、人材の活用や一斉退勤日など具体的な校務負担軽減策を実施する。